



鍼の医学

## 鍼がうまくなるために⑦

その六年間を経て、やっと師匠の診療室への入室を許可される。このような修行は一見驚きにも思えるが、実はこれが大きな意味を持つ。即ち、これで培われるハングリー精神が大事。当今、「全て与えられて」学ぶのが当たり前、という風潮は「学び」には真実邪魔と心得るべきである。

筆者らが中医学を学び始めた一九六〇年代にはこれに関する書籍は全て中国から入ってきた「原書」。当時中国語の辞書も本格的なもの皆無と聞いていい。鐘ヶ江信光氏の小さな物があつたように記憶する（名前は必ずしも正しくないかも……何せ五十年前のこと）。愛知大学のデイクシヨナリーが出版されたのは随分後である。

当時、漢文が比較的好きで高じた行動、実に辿々しい読み。『蘭学事始め』の杉田玄白らの苦勞の思いがしのばれた。

それでも中医学の魅力は大きなものだった。



鍼の医学

## 鍼がうまくなるために⑧

ともかく口の乾きがひどい時、コップの水を一気に飲むように、鍼についての食欲な希求がなければならぬ。

鍼が上手くなるためにはどうすればよいかとよく聞かれる。

筆者即座に「鍼を好きになりなさい」という。

そうすれば、丁度恋人を追っかけるようなもので、「一切の努力」は無用だと。

それほどの魅力ある鍼に出会えるか……。

単純明快だ。だから「努力」しているようでは道はおぼつかない。

今、読者のあなたはそのようなチャンスに出会えたか……。